

5/
25
(月)

罪の告白

レビ記五章

これらの一つに對して罪責ある者となるなら、違反したことについて告白し、その過失のために、……を主への清めのいけにえとして引いて行かなければならない。(5、6)

私たちは自分の罪にはなかなか気づかないものです。気づいたとしても、「このぐいらはたいしたことではない」と思ってしまう。あたかも罪などないかのように振る舞って、それで罪の問題を解消しようとしみます。けれども主は、その一つの罪についても、自分の罪を認めて告白するように語ります。罪を無視しても、本当の解決にはならないからです。罪の眞の解決は、忘れたり考えないようによつてすることによつてではなく、神の前に素直に告白することによつて与えられます。神が罪を認めて告白するようにと促すのは、神のもとに赦しがあるからです。密かに罪を抱えて生きるのではなく、罪赦された者として生きるようにと神は願っておられます。御子キリストの十字架の贖いによつて赦しの道が開かれてゐるからこそ、私たちは神の前に眞実に罪を告白することができなのです。